校長室だより
NO.　１３
令和元年６月17日

すべては光る

梅園小学校長
たか　す　りょうへい
高　須　亮　平

すべては子どもが教えてくれている　　～子どもの行いには理由がある

前号でヨシタケシンスケさんの絵本『りゆうがあります』の紹介をしました。その本の内容を振り返る中で、少し前に読んだ中野敏治著『一瞬で子どもの心をつかむ１５人の教師』（ごま書房）も同じことが書かれていたことを思い出しました。この書名は少し大げさのようですが、確かに一瞬一瞬の子どものとらえの積み重ねで、子どもの心をつかむことはできます。そして、自分がどうすべきかを考えることもできます。これは教師について書かれていますが、大人全般にも通ずることがあるのです。すべては子どもたちが教えてくれているという謙虚な気持ちを持つことの大切さを感じます。それでは、どのようなものかを紹介します。

タブレットを使った図工の授業（1年）

牧野先生という特別支援学級の先生とその学級の子どもとのかかわりについて書かれていました。その学級にクワガタの絵を描くのが好きな子どもがいました。授業中でも彼はクワガタの絵をずっと描いていました。

そこで、牧野先生は「今はクワガタを描く時間ではない」と注意するのではなく、「クワガタの絵、上手だね。続きは休み時間に描こうか」と伝えました。

牧野先生は叱るのではなく、まず子どもが描いている絵をうまいとほめ、そして、「それは今やることではないんだよ。後で描こうね」と声をかけているのです。しかし、彼は何度もこの行為を繰り返したのです。それでも牧野先生は叱らずに繰り返し、彼に「上手だね。後でまたやろうね」と声をかけ続けたのでした。

交流学級の授業でも、彼はクワガタの絵を描いていました。その教室にいた牧野先生は、「授業中にクワガタの絵を描いていたら学習していることが頭に入らないよ。それに、授業をしている○○先生にも失礼だよ」と声をかけました。

ここでも牧野先生は決めつける発言をしていないのです。「私はこう思うよ」と声をかけ、「あなたはどう思う？」というように子どもに判断をさせようと声をかけているのです。

すると、ついに彼の口が開きました。「ぼく、知っているよ」

彼の答えを聞いて牧野先生は驚きました。彼は授業中に描いてはいけないと知っていて、ずっと描いていたのです。分かっているけど、描いてしまっていたのです。

ここで、牧野先生は、彼の行為を注意するのではなく、彼の心に近づこうとしました。彼の「知っているよ」という返事に、牧野先生は「授業中にクワガタの絵を描いていてはいけないこと、それを知っているにもかかわらず描いてしまう。そうせざるを得ないぼくの事情、分かってよ」と彼が訴えているような気がしたのでした。必ず子どもの行為には理由があると知っている牧野先生です。その思いを彼に話しました。「そうだよね。授業中にクワガタの絵を描いてはいけないこと、知っているよね。本

当は、授業を受けたいんだよね。先生は○○君が『分かった、できた、楽しい』と感じられるようにしたいんだ。先生の授業を受けて、思っていることを教えてもらえないかな」と。

牧野先生は彼が授業中にクワガタを描くのは、自分の授業のあり方がよくないからではないだろうかと思いました。だから、直接、本人に思っていることを聞いたのです。彼は拙(つたな)い表現ながら牧野先生に思いのたけを言いました。

彼の行動は、それから劇的に変わったそうです。牧野先生は、「彼の『知っているよ』という一言で変わったのは子どもではなく、教師である私だったのです。そのことを彼は教えてくれたのです。大切なことは、みんな子どもたちが教えてくれるのです」と言っています。

牧野先生は、子どもと関わりながら、子どもの心の中の声に耳を傾け、常に子どもから学ぼうとしています。彼が牧野先生に何と言ったかが気になるところですが、こんなことを言ったのでした。

彼は、「牧野先生は話が長い」「授業の内容に興味が持てなく、面白くないときがある」「ずっと座っているのが退屈だ」「ノートに書くのが面倒になっちゃう」など、牧野先生の授業について感じていることを率直に話しました。

そこには、どんなことを話しても叱られないという、牧野先生と彼との信頼関係があったからでしょう。もしも、牧野先生が彼を叱って、クワガタの絵を描くことを強引に止めさせていたならば、牧野先生の授業は変わらずに、そして、彼の様子もずっと変わらなかったでしょう。

梅の実の収穫（1年と6年）

また、彼が変わった理由には、牧野先生の謙虚さもありました。牧野先生は素直に話してくれた彼に「ありがとう」と感謝しました。教師が子どもに心から御礼を伝えたのです。それを見た彼は「この先生を信じよう。自分も変わろう」と思ったに違いありません。謙虚に子どもから学ぶ姿勢、そして、子どもの行為を上部(うわべ)で判断せずに、その真意を知ろうとした牧野先生の姿に本当の教師像を見た気がします。

その後、牧野先生は彼の言葉を参考に、子どもの視点で根本的に見直し、授業を作り直しました。牧野先生の授業は大きく変わったのでした。子どもたちが「何だか最近の授業は面白くなった！」と気付くほどに具体的に変えたと、牧野先生は言っています。

牧野先生は、授業の中に画像や動画をどんどん取り入れていきました。もちろんクワガタのイラストも使いました。また、友達どうしで相談する時間などを授業の中に取り入れました。牧野先生はこうして彼の言葉から授業を変える努力をしたのです。その気持ちは彼にも伝わり、気付くと彼は授業中にクワガタを描かなくなっていたと言います。学習への意欲も、授業中の姿勢も変わってきたのでした。

子どもたちのすべての行為には理由があります。そして、それを理解し、教師が変われば子どもが変わっていきます。大人が変われば子どもが変わっていきます。大切な子どもたちを本気で教育している教師の姿から、私たち大人は多くを学ぶことができました。そして、私たちの目の前の子どもを確かに育てていきたいものです。